

線形代数学第 1 - 中間試験問題 < 解答例 >

電子情報学類 1 年生 (1 組) 平成 2 0 年度前期 - 2008.5.28 -

1. 次のベクトル, 行列の計算を行え. 計算が不可能な場合は「計算不可」と答えること (3 点 × 6 題 = 18 点).

$$(a) \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \\ 5 \end{bmatrix} \quad (b) \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \\ 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & -2 & 3 \end{bmatrix}$$

$$(c) \begin{bmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 2 \\ 2 & -3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} -1 & 1 \\ 3 & -2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix} \quad (d) \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \\ -2 & 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 2 & -1 & 2 \\ -1 & 3 & 1 \\ -2 & -2 & -3 \end{bmatrix}$$

$$(e) \begin{bmatrix} 2 & -1 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 & 3 \\ -3 & -2 \\ 1 & 0 \end{bmatrix} \quad (f) \begin{bmatrix} 1 \\ -2 \\ 3 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 2 \\ -5 \end{bmatrix}$$

< 解答例 >

(a) $2 + 1 = 3$

(b)

$$\begin{bmatrix} 2 & -4 & 6 \\ -1 & 2 & -3 \\ 3 & -6 & 9 \end{bmatrix}$$

(c) 計算不可

(d)

$$\begin{bmatrix} 3 & -4 & 1 \\ -6 & 0 & -7 \end{bmatrix}$$

(e)

$$\begin{bmatrix} 6 & 8 \end{bmatrix}$$

(f) 計算不可

2. 次の命題は正しいか否か．理由をつけて示せ（4点×5題=20点）．

- (a) A の第 1 列と第 3 列が等しければ， AB の第 1 列と第 3 列も等しい．
- (b) A の第 1 行と第 3 行が等しければ， AB の第 1 行と第 3 行も等しい．
- (c) B の第 1 列と第 3 列が等しければ， AB の第 1 列と第 3 列も等しい．
- (d) B の第 1 行と第 3 行が等しければ， AB の第 1 行と第 3 行も等しい．
- (e) $(AB)^2 = A^2B^2$ ．

<解答例>

A の第 i 行を \mathbf{a}_{ri}^T ，第 i 列を \mathbf{a}_{ci} ， B の第 i 行を \mathbf{b}_{ri}^T ，第 i 列を \mathbf{b}_{ci} とする．

- (a) 「正しくない」(理由) AB の第 i 列は， A の全ての行ベクトルと B の第 i 列のベクトルの内積で決まり， $[\mathbf{a}_{r1}^T \mathbf{b}_{ci}, \mathbf{a}_{r2}^T \mathbf{b}_{ci}, \dots, \mathbf{a}_{rn}^T \mathbf{b}_{ci}]^T$ となる．命題では， B の第 1 列と第 3 列が等しいとは限らない．
- (b) 「正しい」(理由) AB の第 i 行は， A の第 i 行のベクトルと B の全ての列ベクトルの内積で決まり， $[\mathbf{a}_{ri}^T \mathbf{b}_{c1}, \mathbf{a}_{ri}^T \mathbf{b}_{c2}, \dots, \mathbf{a}_{ri}^T \mathbf{b}_{cn}]$ となる．従って， A の第 1 行と第 3 行が等しければ， AB の第 1 行と第 3 行も等しい．
- (c) 「正しい」(理由) AB の第 i 列は， A の全ての行ベクトルと B の第 i 列のベクトルの内積で決まり， $[\mathbf{a}_{r1}^T \mathbf{b}_{ci}, \mathbf{a}_{r2}^T \mathbf{b}_{ci}, \dots, \mathbf{a}_{rn}^T \mathbf{b}_{ci}]^T$ となる．従って， B の第 1 列と第 3 列が等しければ， AB の第 1 列と第 3 列も等しい．
- (d) 「正しくない」(理由) AB の第 i 行は， A の第 i 行のベクトルと B の全ての列ベクトルの内積で決まり， $[\mathbf{a}_{ri}^T \mathbf{b}_{c1}, \mathbf{a}_{ri}^T \mathbf{b}_{c2}, \dots, \mathbf{a}_{ri}^T \mathbf{b}_{cn}]$ となる．命題では， A の第 1 行と第 3 行が等しいとは限らない．
- (e) 「正しくない」(理由) $(AB)^2 = ABAB \neq AAB B = A^2B^2$ ．一般に行列の積は交換可能ではない．

3. 次の連立方程式をガウスの前進消去と後退代入により解け．前進消去の途中で行の交換が必要となるが，この行の交換を行う行列 P も求めよ（10点）．

$$\begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \\ -2 & 2 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{bmatrix}$$

<解答例>

ガウスの前進消去を行う。

$$\begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$$

上式で、第2行と第3行を入れ替える。

$$\begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$$

上式より、ガウスの後退代入により、 $w \rightarrow v \rightarrow u$ の順に解が求まる。

$$w = 1 \quad v = 0 \quad u = 1$$

第2行と第3行を入れ替える行列 P は単位行列で第2行と第3行を入れ替えて求められる。

$$P = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$

4. 次の行列を LDU に分解せよ (15点)。

$$A = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 \\ -2 & 0 & -1 \\ -1 & 0 & -3 \end{bmatrix}$$

<解答例>

ガウスの前進消去を行う。

- (1) 第1行の-2倍を第2行から引く。
- (2) 第1行の-1倍を第3行から引く。

$$A \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 0 & -2 & 1 \\ 0 & -1 & -2 \end{bmatrix}$$

(3) 第2行の1/2倍を第3行から引く.

$$U = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 0 & -2 & 1 \\ 0 & 0 & -5/2 \end{bmatrix}$$

この結果から, 行列 L が次のように求まる.

$$L = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ -2 & 1 & 0 \\ -1 & 1/2 & 1 \end{bmatrix}$$

対角行列 D の対角要素は行列 U の対角要素に等しいから,

$$D = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & -2 & 0 \\ 0 & 0 & -5/2 \end{bmatrix}$$

行列 U は, さらに, 各行列を対角要素で割る.

$$U = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & -1/2 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

以上より

$$\begin{aligned} A &= \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 \\ -2 & 0 & -1 \\ -1 & 0 & -3 \end{bmatrix} \\ &= LDU = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ -2 & 1 & 0 \\ -1 & 1/2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & -2 & 0 \\ 0 & 0 & -5/2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & -1/2 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

5. 次の行列の逆行列を *Gauss-Jordan* 法により求めよ (17点).

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 2 & 1 & -1 \\ -1 & 2 & 0 \end{bmatrix}$$

<解答例>

$$\begin{aligned} [A|I] &= \left[\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & -1 & 1 & 0 & 0 \\ 2 & 1 & -1 & 0 & 1 & 0 \\ -1 & 2 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{array} \right] \\ &\rightarrow \left[\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & -1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & -2 & 1 & 0 \\ 0 & 2 & -1 & 1 & 0 & 1 \end{array} \right] \rightarrow \left[\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & -1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & -2 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & -3 & 5 & -2 & 1 \end{array} \right] \\ &\rightarrow \left[\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 0 & -2/3 & 2/3 & -1/3 \\ 0 & 1 & 0 & -1/3 & 1/3 & 1/3 \\ 0 & 0 & -3 & 5 & -2 & 1 \end{array} \right] \\ &\rightarrow \left[\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 0 & -2/3 & 2/3 & -1/3 \\ 0 & 1 & 0 & -1/3 & 1/3 & 1/3 \\ 0 & 0 & 1 & -5/3 & 2/3 & -1/3 \end{array} \right] \end{aligned}$$

以上より,

$$\mathbf{A}^{-1} = \frac{1}{3} \begin{bmatrix} -2 & 2 & -1 \\ -1 & 1 & 1 \\ -5 & 2 & -1 \end{bmatrix}$$

6. 次の行列 A, B の逆行列は存在するか。「逆行列は存在する」又は「逆行列は存在しない」と答え、その理由を示せ。但し、逆行列を求める必要はない(5点×2題=10点)(ヒント)行列 A の逆行列は *Gauss-Jordan* 法によれば、 A を単位行列 I に変形する操作と同じ操作を単位行列 I に対して行うことにより得られる。 A, B をガウスの前進消去(必要であれば、行の入れ替えを行う)で U に変形し、 U の形に基づいて理由を示せ(A と B は独立した問題)

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 1 & -2 & -1 \\ 3 & -1 & 1 \\ 1 & 3 & 3 \end{bmatrix} \quad \mathbf{B} = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 0 \\ -2 & 1 & -1 \\ -1 & 1 & 2 \end{bmatrix}$$

<解答例>

Gauss-Jordan 法により、行列 A, B を単位行列に変形することが可能であ

れば、それらの逆行列が存在する。逆に、単位行列に変形できない場合は、逆行列は存在しない。行列 A と B にガウスの前進消去を行う。

$$A = \begin{bmatrix} 1 & -2 & -1 \\ 3 & -1 & 1 \\ 1 & 3 & 3 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -2 & -1 \\ 0 & 5 & 4 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

$$B = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 0 \\ -2 & 1 & -1 \\ -1 & 1 & 2 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -2 & 0 \\ 0 & -3 & -1 \\ 0 & 0 & 7/3 \end{bmatrix}$$

行列 A では、ガウスの前進消去により、零の行が発生する。この場合は、単位行列への変形は不可能であり、逆行列は存在しない。一方、行列 B では、ガウスの前進消去により、対角要素が全て非零であり、これを単位行列に変形することは可能である。従って、逆行列が存在する。

7. 次の方程式が解を持つために b_1, b_2, b_3 が満たすべき条件を求めよ。この条件が成り立つとき、この連立方程式はどのような解を持つか（一意解、不定解、不能解のいずれかを答えよ）(10点)。

$$\begin{bmatrix} -1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & -2 \\ -1 & 2 & -2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{bmatrix}$$

<解答例>

上記の方程式をガウスの前進消去により変形する。

$$\begin{bmatrix} -1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & -2 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 + b_1 \\ b_3 - b_2 - 2b_1 \end{bmatrix}$$

3行目の方程式は

$$0 = b_3 - b_2 - 2b_1$$

となる。従って、解を持つためには b_1, b_2, b_3 がこの条件を満たすことが必要十分条件である。

次に、この条件が成り立つ場合、未知数の数が3で方程式の数が2であるから、「不定解」を持つ。